

上部消化管外科プログラム

【概要】

上部消化管外科学は、食道・胃をはじめとする悪性疾患に加え食道裂孔ヘルニア・食道アカシヤなどの良性疾患を扱い高度の専門知識、技術が必要とされる厚生労働省により定められた施設認定基準の多くの手術が含まれており、専門医取得に必要な基本的な外科医の姿勢、基本的手技から高度技術まで指導しています。

笹子主任教授は、胃癌治療の世界的なオピニオンリーダーで、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）胃癌グループの代表者を務めています。基本的にはがん治療ガイドラインに沿った標準的治療に準じていますが、JCOG の臨床試験に積極的に加わり、より良い治療法の開発に寄与しています。

研修の骨格：後期研修では、一般外科学における基本的診療の知識、技術を下記のプログラムに沿って経験し、修得、発展させます。原則的には将来外科専門医を目指す者を対象としており、外科研修のプログラムの第1章として位置付けています。将来形成外科など外科系の他科を専攻する者には外科的診断法や外科共通の基本手技を獲得する機会として企画されています。

当院及び関連する修練施設をローテートして、外科専門医に必要な全項目が網羅できるような体制をとっています。関連施設は日本外科学会・日本消化器外科学会の認定施設であり、外科学会専門医取得をはじめ、外科学会指導医・消化器外科学会専門医・消化器外科学会指導医・内視鏡外科技術認定医・肝胆膵外科高度技能医等、その先の専門分野のエキスパート養成を目指します。

【卒後3年目の他部署研修について】

外科専門医取得のため、未経験症例があるようであれば心臓血管外科、呼吸器外科での研修、胸部外科症例の研修修了しておれば入局後相談し ICU 含め他科のいずれかで、希望により3ヶ月間研修を行うことができます

【カンファレンス、症例検討会等】

術前症例検討会、抄読会、回診を定期的に行っています。又、内科、病理診断科との合同カンファレンスも定期的に行っています。他院では経験しないような治療困難例をつぶさに見ることができ、貴重な経験となります。

【学会発表・論文投稿へのサポート】

日本外科学会専門医取得には、指定の学術集会での発表または学術雑誌への投稿が義務付けられています。グループで適切な症例を選択し、学会発表から論文投稿までの一連の作業をサポートします。

【修練修了・専門医取得後について】

本人の意思を尊重し、①さらなる専門領域研鑽のために大学で経験を積む、②関連施設にてさらなる臨床経験を積む、③大学院に進学し医学博士号取得を目指すなど、幾つかの選択肢があり、それぞれの順序も選択可能です。

【大学院進学及び留学について】

大学院での研究は外科を中心として基礎教室と連携して研究を行っており、必要に応じて国内留学する場合があります。大学院生は多くの優れたトップジャーナルに研究論文を発表し、高い評価

を受けています。

学位取得後、希望者には海外留学も可能です。これまで及び現在の留学先は下記の通りです。
ロンドン大学、ハイデルベルグ大学、ケルン大学、シュトラスブルグ大学、カロリンスカ大学、ペ
ローナ大学、ローマ大学、MDアンダーソンがんセンター（テキサス大学）、ニューヨークスローン
ケッタリングがんセンター、ハーバード大・コロンビア大・ニューヨーク大・カリフォルニア大
（UCL A・UCSD）・ボストン大・ノースカロライナ大・サンディエゴ大学、ルンド大学（スウェ
ーデン）・ブリュッセル自由大学

【指導医】

指導責任者および連絡先

上部消化管外科学 主任教授：笹子 三津留（日本外科学会専門医・指導医・認定医）

（日本消化器外科学会専門医・指導医）

（日本がん治療医認定機構・暫定指導医）

TEL：0798-45-6767

FAX:0798-45-6767

E-mail:s-sasako@hyo-med.ac.jp(秘書：両角)

【研修統括者】

助教：海辺 展明